- (3次元系における角運動量演算子 1:angularmomentum-3D1qa-100803b.tex) 3次元系における角運動量演算子についての次の問いに答えよ。
 - 1. 角運動量演算子(の直交直線座標表示)のx,y,z成分、 ℓ_x,ℓ_y,ℓ_z を x,y,z,p_x,p_y,p_z のいくつかを用いて表わせ。
 - 2. 角運動量演算子の間の交換関係 $[\ell_x,\ell_y]=\mathrm{i}\hbar\ell_z$ を証明せよ。

ただし、プランク定数を h, ディラック定数を $\hbar \equiv h/(2\pi)$ とし、座標演算子と運動量演算子の間には次の正準交換関係が成立する。

$$[x, p_x] = i\hbar, [y, p_y] = i\hbar, [z, p_z] = i\hbar, \tag{1}$$

$$[x, x] = [x, y] = [x, z] = [x, p_y] = [x, p_z] = 0,$$
 (2)

$$[y, y] = [y, z] = [y, p_x] = [y, p_z] = [z, p_x] = [z, p_y] = 0.$$
 (3)

ただし、演算子 A,B に対して、交換関係は $[A,B] \equiv AB-BA$ と定義される。以上の諸式をまとめると、同じ成分の座標演算子と運動量演算子の間では交換関係が成立し、それ以外の演算子間では積の順番を変えてもよい。

(E) (ヒント) 演算子 A, B, C, D に対して,次の公式を用いよ。

$$[AB, CD] = ABCD - CDAB, (4)$$

$$[A, C - D] = [A, C] - [A, D], (5)$$

$$[A - B, C - D] = [A, C - D] - [B, C - D]$$

= $[A, C] - [A, D] - [B, C] + [B, D].$ (6)

(解答例)

1. 角運動量演算子のx, y, z成分 ℓ_x, ℓ_y, ℓ_z は次のように表される。

$$\ell_x = yp_z - zp_y, \quad \ell_y = zp_x - xp_z, \quad \ell_z = xp_y - yp_x. \tag{7}$$

2. 前問の結果を用いて、角運動量演算子の成分間の交換関係を計算する。

$$[\ell_{x}, \ell_{y}] = [yp_{z} - zp_{y}, zp_{x} - xp_{z}]$$

$$= [yp_{z}, zp_{x}] - [yp_{z}, xp_{z}] - [zp_{y}, zp_{x}] + [zp_{y}, xp_{z}],$$

$$= yp_{z}zp_{x} - zp_{x}yp_{z} - (yp_{z}xp_{z} - xp_{z}yp_{z}) - (zp_{y}zp_{x} - zp_{x}zp_{y})$$

$$+ (zp_{y}xp_{z} - xp_{z}zp_{y})$$

$$= p_{z}z \cdot yp_{x} - zp_{z} \cdot p_{x}y - xyp_{z}^{2} + xyp_{z}^{2} - z^{2}p_{x}p_{y} + z^{2}p_{x}p_{y}$$

$$+ zp_{z} \cdot xp_{y} - p_{z}z \cdot xp_{y}$$

$$= (p_{z}z - zp_{z})yp_{x} + (zp_{z} - p_{z}z)xp_{y}$$

$$= -[z, p_{z}]yp_{x} + [z, p_{z}]xp_{y}$$

$$= i\hbar(xp_{y} - yp_{x})$$

$$\rightarrow [\ell_{x}, \ell_{y}] = i\hbar\ell_{z}.$$

$$(8)$$

(備考:同様にして、 $[\ell_y,\ell_z]=i\hbar\ell_x$, $[\ell_z,\ell_x]=i\hbar\ell_y$ も証明できる。角運動量演算子間の交換関係は以下のように、非常に重要な関係式である。すなわち、相互作用の有無にかかわらず、三つの角運動量演算子はお互いに交換しないので、同時には固有状態は存在しないことを意味する。また、角運動量演算子間の交換関係より、角運動量演算子の行列要素も計算される。類似の性質がスピン演算子間にも成立する。)